三鷹市立大沢台小学校　令和8年度【生活】科　授業改善推進プラン

		学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年		**〈学習状況の現状と課題〉** ・２年生から学校を紹介されたことで、教室の場所を知り、より調べてみたいと校内の施設や関わっている人への興味・関心が高まった。 ・アサガオの世話や観察に、興味・関心をもって活動することができた児童が多い。直接観察すると共に、タブレットを活用し、写真を撮ってからじっくり前回の観察と比べて変化したことや成長した様子を表現することができた。しかし、水やりを忘れる児童もいて、日々のお世話の大切さをより学ばせる必要がある。 ・「なつとなかよし」では、夏に適した遊びを思い付くが、どんな遊びかを説明したり、面白さを伝えたりすることが苦手な児童が見られた。	**〈指導方法の課題〉** ・植物の変化や成長の様子を調べたり、変化の様子を想像したりしながら観察すること力には個人差がある。 ・見付けた物、事、人について、先生や友達に意欲的に話したり、友達の話を聞こうとしたりする活動が十分にできなかった。 **〈授業改善策〉** ・じっくり観察して見つける・比べる・例える・試す活動を大切にして、気付きを引き出し、より全員で共有できるようにする。 ◎ペアや少人数グループで気付いたことを共有し、関心を高められるようにする。また、伝え合いのヒントを提示し、考えを共有し合う工夫を行う。 ・同じ単元の学習を繰り返し行い、体験学習を通して、適した遊びを考えたり、分かったことや面白さを伝え合えたりできるようにする。
第2学年	〈成果〉 ・年長児との交流を通して、喜んでもらえるように工夫して準備をしたり、発表したりすることができた。 ・一人一鉢のアサガオの花の世話や観察、リース造りを通して、植物の親しみが増し、感じたことや分かったことなどを表現することができた。 〈課題〉 ・児童の興味・関心をさらに深めるための、人財確保や、環境確保が難しい場面があった。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・１年生との学校探検では、事前の学習やインタビューを通して、学校の事や施設を積極的に１年生に教えようとする姿が見られた。 ・自然や生き物と積極的に関わろうとしていた。 ・「野菜を育てよう」では、ミニトマトやナス、ピーマン等を一人一鉢育てた。苗の時点では、葉の形や色、大きさについてそれぞれ違いを理解することができたが、成長のスピードが違ったり、高温のため生育があまりよくなかったりして継続して違いを観察することができなかった。 ・１年時の学習により学校生活を支える人がいることについては気付いたが、まだ地域までは興味が向いていない。	**〈指導方法の課題〉** ・学校探検は、上級生として初めて１年生と関わり、交流をもつ大切な活動である。児童がより見通しをもって活動できるように、招待状作り、インタビュー、まとめ等の事前の活動や打ち合わせ、日程調整等があり、計画的に進めていく必要があると感じた。 ・活動や発見を自身との関わりで捉えられる指導の工夫や表現方法の幅を更に広げていく必要がある。 **〈授業改善策〉** ・「計画」、「活動」、「振り返り」、「交流」の学習の流れをつくることで、お互いに情報や表現方法を共有し、次の活動や他教科の学習にもつなげられるようにする。 ・地域や人と交流する活動を計画的に行い、自分との関わりを考えながら行動できるような視点を与える。 ◎地域やいろいろな人と交流する中で、自ら知りたい、学びたいという課題を見つけ、自分なりの方法で解決しようとする意欲をもてるようにする。